

群馬県立板倉高等学校 学校評価一覧表② (令和3年度版)

(様式2)

羅 針 盤			達成度			改善状況のまとめ	学校関係者評価	次年度の課題
評価対象	評価項目	具体的数値項目	①	②	総合			
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	①類型・コース制の特色を生かした教育課程に、生徒の80%以上が満足している。	A	A	A	○類型・コース制に満足している生徒が9割以上いる。生徒及び保護者の要望に十分応えている。 ○チャレンジタイムに積極的に取り組んでいる生徒が9割を超えている。今後も継続したい。	○生徒の満足度が昨年度よりも13%上昇し、保護者の満足度も高い。素晴らしい取組である。 ○「スクールミッション」・「スクールポリシー」の実現・推進を通して、「特色ある教育活動」を具現化してほしい。	○生徒の進路希望が達成できる教育課程となるよう新指導要領に向けた教育課程を具体化していく。 ○チャレンジタイムの内容に関しては、随時見直ししながら、効果的な内容となるよう改善していく。
		②チャレンジタイムⅠ・Ⅱ・Ⅲの内容に、生徒の80%以上が満足している。	A	A	A			
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	①「授業が分かりやすい」と、生徒の80%以上が答えている。	A	A	A	○91%以上の生徒が授業が分かりやすいと感じている。分かる授業を大切にしながら、生徒が活動する場面を多く取り入れるようにする。 ○83%以上の生徒が授業中に活動に参加していると感じている。さらに「主体的・対話的で深い学び」となるように学習内容を検討する。	○生徒の満足度が昨年度よりも13%上昇して、良い成果を上げている。ただ、「そう思う」が27%にとどまっているので、さらに授業改善を図ってほしい。 ○各学年ごとに進むべき方向を明確にして、目的意識を持った人間を育成すべく、学習指導を進めてほしい。	○教員同士の授業参観期間を設け、改善のポイントを明確にする職員研修を通して、多様な生徒の実態に応じた指導方法を共有する。 ○新学習指導要領を踏まえた授業展開を考え、新しい学力観に応じた評価方法を検討する。
		②授業中に、「活動しながら学習したり、学習したことをもとにして考えることがある」と生徒の60%以上が答えている。	A	A	A			
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	①単位未修得者は、全生徒の5%以下である。 ②「基礎科目」によって基礎・基本の知識が身についたと感じている生徒が80%以上である。 ③資格取得に向けた指導に、生徒の80%以上が満足している。	A	A	A	○単位未修得者は減少傾向にあるが、学習習慣が身につけていない生徒もいる。 ○基礎科目は概ね満足度が高いが、知識を活用する場面をさらに増やす。 ○より上位の資格がとれるように、生徒の学習活動を促し、達成感を育みながら、指導体制の充実を図る。	○新学習指導要領により、知識の幅が広がっているので、活用に目を向けることは必要だと思う。 ○ペーパーテストで測れない学力にも目を向け、バランスの良い学力を育成してほしい。 ○基礎科目を確実に自分のものとし、生徒の進路実現へとつなげたい。	○多様な生徒に応じた指導方法を工夫し、生徒の自己肯定感を育むような授業展開を考える。 ○基礎的な学習内容から発展的な学習も取り入れた授業を心がける。 ○より上位の資格取得を目指すように動機づけを図り、生徒の自己実現に向けた授業を展開する。
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	①問題行動の発生件数及び退学者数を前年度以下にする。	B	A	B	○発生件数、退学者ともに減少。実態を全職員が把握し、さらに協力体制を整える。 ○服装頭髪指導で指導される生徒が大幅に減少した。 ○校内組織の充実、アンケートの活用、スクールカウンセラーや保護者との連携等、チェック体制を再点検するとともに、積極的にいじめを認知し、解消に努める。 ○欠席率、遅刻率ともに減少傾向。家庭との協力体制の構築が必要。 ○今後も、交通関係の情報の提供や交通安全街頭補導等でルールを遵守させ事故防止に努めたい。 ○指導体制の確立と全職員の共通理解を図ることが必要。	○問題行動や退学者、欠席率、遅刻率が減少傾向にあるのは、貴校の生徒指導が十分機能している成果である。小中学校で取り組んでいる「SOSの出し方教育」を高校でも取り組んでほしい。 ○コミュニケーション力を育成する指導を継続することで、生徒の人間関係構築力が高まり、問題行動のさらなる減少へとつながるのではと考える。 ○人生100年時代を迎えた今日、生徒がこれからの長い生涯において、安全で健康に過ごせるよう、各種機会をとらえて指導してほしい。	○生徒が主体的に行動できるように指導し、さらに生徒の規範意識を高めるように努める。 ○生徒一人ひとりの規範意識を育む指導体制の確立。 ○不登校生徒に対しては保護者との連絡を密にし、柔軟な対応をしていく。 ○日常的な観察と情報の共有、チェック体制を整え、生徒一人ひとりの観察をより丁寧に行う。 ○交通安全教室を継続的に実施し、生徒が主体的に交通安全に努められるように指導する。 ○部活動の新しい体制の構築。
		②服装頭髪指導のチェック者の延べ人数を前年度以下にする。	A	A	A			
	5 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	①いじめに関するアンケート年間5回、それに伴うフォローアップを年間5回実施する。	A	A	A			
6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	①欠席率及び遅刻率を前年度以下にする。 ②交通事故件数を前年度以下にする。 ③部活動の加入率を60%以上にする。	B	B	B	○欠席率、遅刻率ともに減少傾向。家庭との協力体制の構築が必要。 ○今後も、交通関係の情報の提供や交通安全街頭補導等でルールを遵守させ事故防止に努めたい。 ○指導体制の確立と全職員の共通理解を図ることが必要。	○欠席率、遅刻率ともに減少傾向。家庭との協力体制の構築が必要。 ○人生100年時代を迎えた今日、生徒がこれからの長い生涯において、安全で健康に過ごせるよう、各種機会をとらえて指導してほしい。	○欠席率、遅刻率ともに減少傾向。家庭との協力体制の構築が必要。 ○人生100年時代を迎えた今日、生徒がこれからの長い生涯において、安全で健康に過ごせるよう、各種機会をとらえて指導してほしい。	
		A	A	A				
		A	B	B				
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	①「板高進路ニュース」を月2回発行し内容の充実を図る。	B	B	B	○進路ニュースでは、ドリカムプラン関連情報、今後取り組まなければならないこと・一般常識問題等を掲載し充実を図っている。 ○定期的な行事に関しては、進路希望調査に基づいて見学先、体験に内容を検討し実施している。 ○適性診断、職業検査、学力テストを実施し、検査結果の見方を指導し理解を深めている。 ○進路情報は適宜提供し、多くの情報に戸惑う生徒には個別対応を行った。	○キャリア教育の中でも自己理解能力の育成は重要な位置を占めていると思う。そういった意味で自分の適性を考えさせる取組は有効だと思う。 ○「夢」や「目標」を実現すべく、さまざまな体験活動を引き続き実施し、努力できる高校生を育成してほしい。	○随時生徒に進路意識を啓発する内容を掲載し、また家庭に持ち帰るよう指導する。 ○ドリカムプランの行事内容を随時検討し、生徒の進路意識の啓発につながるよう努めたい。 ○今後も自己理解につながる適性診断の結果講話を実施し、進路選択に役立てたい。 ○就職志望先の選択の観点が多岐にわたらない生徒が少ない。職業観の育成から指導を充実させたい。
		②「ドリカムプラン」に生徒の80%以上が満足している。	A	A	A			
	③生徒の将来の志望について理解している保護者が、70%以上である。	A	A	A				
8 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	①自分の適性を理解している生徒が、60%以上である。 ②進路実現に向けて積極的に取り組んでいる生徒が70%以上である。 ③100%の生徒が、目標とした進路を実現できるようにする。	A	A	A	○自分の適性を理解している生徒が、60%以上である。 ○進路実現に向けて積極的に取り組んでいる生徒が70%以上である。 ○100%の生徒が、目標とした進路を実現できるようにする。	○自分の適性を理解している生徒が、60%以上である。 ○進路実現に向けて積極的に取り組んでいる生徒が70%以上である。 ○100%の生徒が、目標とした進路を実現できるようにする。	○自分の適性を理解している生徒が、60%以上である。 ○進路実現に向けて積極的に取り組んでいる生徒が70%以上である。 ○100%の生徒が、目標とした進路を実現できるようにする。	
		A	A	A				
		A	A	A				
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	①PTA総会、授業参観、学年保護者会等に参加している保護者が、のべ50%以上である。	B	B	B	○新型コロナウイルス感染拡大防止のため、大半の実施を見送った。形骸化を避けつつ簡素化を図り、会員がより参加しやすいものを目指す。 ○年2回、カラー版で発行し、掲載内容も工夫した。 ○webページの閲覧数は上昇したが、定期的に見てもらおうような工夫が必要である。	○コロナによって行事の精選が進むというメリットもある。行事ごとの成果や課題をまとめ、次年度に生かしてほしい。 ○保護者アンケートの結果から、保護者の学校への理解が進んでいると感じる。「かわら版」を毎回楽しみにしている。 ○板高としての使命を有効にするためには、保護者の関心を高める工夫が必要である。	○更なる参加者の増加を図るため、周知を促す。 ○一層の内容充実を図りつつ、年2回の配布を維持し、効率的な運用を図りたい。 ○学級担任を通じて持ち帰りの徹底を図るとwebページについては、新入生の保護者への案内に力を入れていきたい。
		②本校情報誌「板倉高校かわら版」を年2回以上発行している。	A	A	A			
		③学校のwebページを月2回以上更新する。保護者メールも活用し、随時情報を発信する。	A	A	A			
VI 教育のデジタル化に努めていますか。	10 ICTを活用した指導を行っていますか。	①80%以上の教員が、教科等の指導場面においてICTを活用し、個別最適な学び、協働的な学びを追究した授業を実践する。	A	A	A	○教職員間でICTを活用した指導の実践事例を共有し、生徒が使えるように試行錯誤していく。	○電子黒板の設置で授業が大きく変わったと思う。難しいと思うが、繰り返し導入を要望していくことが望まれる。	○引き続き、教職員間でICTを活用した適切な指導の在り方について、校内研修等を通じて共有し合う。
	11 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	①校務分掌・学年等においてICTを活用した業務改善を進め、校務分掌・学年等が実施する諸調査等の60%以上をペーパーレスで実施する。	A	A	A	○教職員間でICTを活用した業務改善の実践事例を共有し、引き続き校内研修等を実施し、ともに試行錯誤していく。	○今の時代は、ICT活用を避けて通れない。ただ、デジタル教育活動の核に「人間」が存在すべきと考える。	○引き続き、教職員間でICTを活用した適切な業務改善の在り方について、校内研修等を通じて共有し合う。